衛生委員会　通信　2025.07

株式会社アクティブシックスオー
第一種衛生管理者　松田　享

2025.7.29

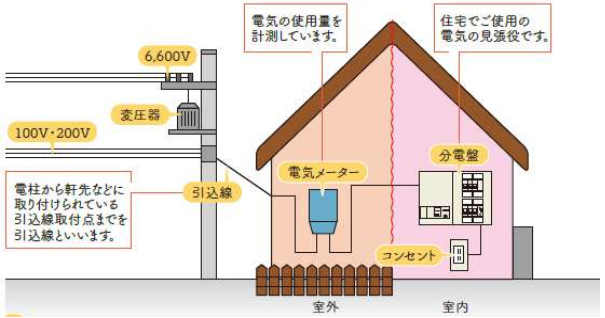
　従業員の皆さん　日々のお仕事ご苦労様です。
今年は、平年並みの6月上旬の梅雨入りでしたが、東海地方から西の地域では、6月末までに梅雨明けが宣言され、7月19日には、梅雨のある北海道を除く日本全土の梅雨明けも発表され、本格的な夏の季節となりました。今年は、早くから猛暑が予想されており「熱中症警戒アラート」も毎日のように発令されており、ニュースで熱中症で搬送される方の数も増えています。引き続きこまめな水分補給と自分の体調を過信することなく、適宜な休憩とエアコンを上手に使って熱中症にならない対策をお願いします。
今月の「衛生委員会通信」は、例年通り経済産業省が**感電死亡事故が最も多い8月を「電気使用安全月間」**としていることからから**「電気を安全に使うため」**にです。

電気設備と確認

住宅には、電気を受けるための設備と安全に電気を使うための安全装置が取り付けられています。
毎日使う電気だからこれらの役割を知って正しく使用することが大切です。

電気の流れ

電柱の一番上の線は**通常高圧（6，600V）で送電**されており、この線から**変圧器を通り低電圧に変圧**された電気が、下の線に流れていきます。ご家庭に送られてくる電気は、低電圧の電線から引込線と電気メーターを通って**分電盤**へと流れて行きます。
ぜひ一度、電気メーター、分電盤が家のどこにあるか、確認してみてください。



分電盤の役割

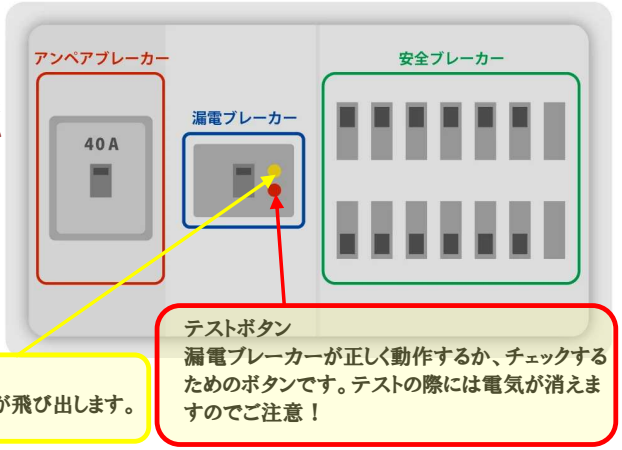
分電盤は、各部屋に電気を分配し、使い過ぎやショート（短絡）、漏電で事故にならないよう、ご家庭で使う電気をチェックする大切な役割を担っています。

アンペアブレーカー（サービスブレーカー）

分電盤の左端についているブレーカーで電力会社との**契約以上の電気**が流れると自動的に電気が止まる仕組みになっています。**※ご契約の種類により、取り付けがない場合もあります。**

漏電ブレーカー

配線や電気製品から電気が漏れたことを感知すると電気を自動的に止めます。
漏電ブレーカーが動作すると、レバーが中間まで下がります。**※製品によって異なる場合があります。**



安全ブレーカー

分電盤から各部屋へ電気を送る分岐回路のそれぞれに取付けられています。（許容電流は一般的に20A）
電気器具やコードで**ショート**したときや、使いすぎて過電流が流れた場合に電気が止まる仕組みになっています。200V専用回路には、**原則200Vの赤字表示**があります。

PSEマーク

電気製品が原因の火災や感電などから消費者を守るために設けられた電気用品安全法。メーカーや輸入業者は製品が安全であることを確認し、適合製品にPSE マークを付けて販売することが求められています。ひし形のマーク（116 品目 2017 年1月現在）は丸型よりも高い安全性が求められる製品に付けられます。

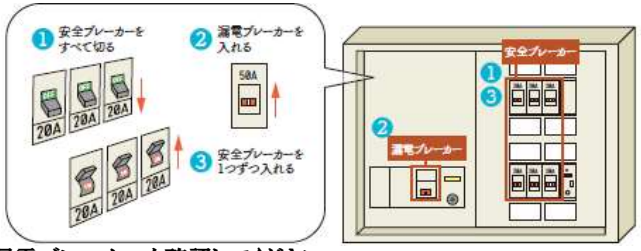
アース線の役割

アース線は、漏電が発生した場合に、漏れた電気をアース線を通じて地面に流し感電を防ぐための大切な役割を担っています。安全のため、水気のある場所や湿気の多い場所で使用する電気機器や使用電圧の高い器具**（洗濯機・衣類乾燥機、電子レンジ、電気給湯器、エアコン、温水洗浄便座、食洗器、冷蔵庫、テレビ、パソコン、庭園灯）**にはアースを取り付けるように定められています。

・**アース線取付けあり**・・・漏電しても電気は人体を通らずアース線に流れ感電を防ぐことができます。
・**アース線取付けなし**・・・電気が人体を流れて危険です。

家で電気が消えたとき

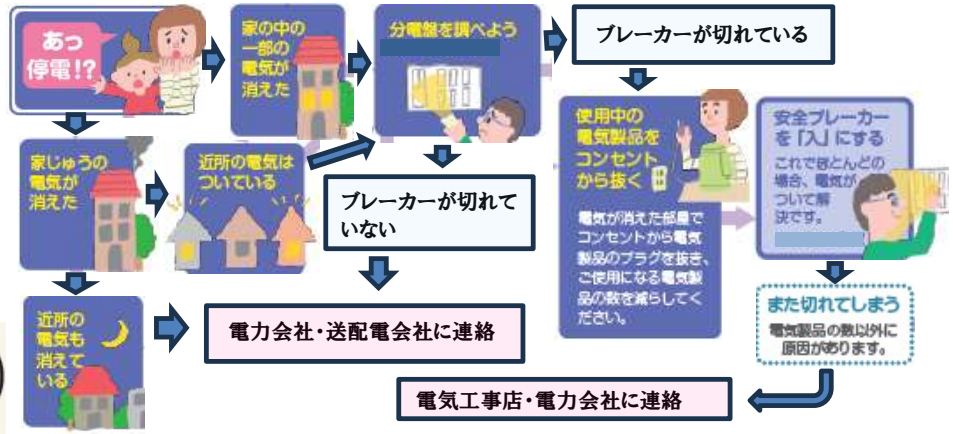
・**家の中の一部が消えている場合**
多くの電気製品を同時に使用したため、過剰な電気が流れたこと（過電流）が考えられます。また、電気製品等の不具合も考えられます。
分電盤の安全ブレーカーを確認してください。



・**家じゅうの電気が消えている場合**
漏電が発生した可能性があります。漏電ブレーカーを確認してください。
・**ご近所も消えている場合**
電力会社・送配電会社の設備による停電の可能性があります。管轄の電力会社にお問合せください。

家の電気が消えた時の対処法

家の電気が消えた時はついつい慌ててしまいますが、まずは落ち着いて停電状況を確認しましょう。



日常生活での注意点

電気はとても便利なエネルギーですが、使い方を間違えると火災の原因となる場合があり、大変危険です。電気は正しく安全に使いましょう。

大切なコードの取扱い

コードは家電製品と電源を結ぶ大切な用具です。断線や火災の原因をつくらないよう大切に取扱いましょう。

◆家具などの下敷きになっていると、断線や火災の原因になりますのでやめましょう。

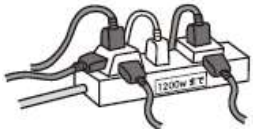
◆ステップルで、柱や壁に固定したりすると、断線したり被覆線が破れ、火災の原因となりますのでやめましょう。

◆長いコードを束ねていると、火災の原因となりますのでやめましょう。

◆コードを引っ張るとコードが傷んで断線や火災の原因になるので必ずプラグを持って抜きましょう。

タコ足配線で同時に使用しない

接続された電気製品を同時に使った場合、電流が多く流れて電気火災の危険があります。使用時は、テーブルタップの容量を超えないように注意しましょう。



コンセント・差込みプラグ

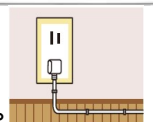
掃除機や電気ドライヤーなどの家電製品を使用するためには、電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。しかし、頻繁にプラグを抜き差しするコンセントや長年使用しているコンセントは、その内部が傷んでガタガタになりプラグを差し込んでも完全に接触していない状態になることがあります。このような状態を放置しますと接触不良になり、大変な結果を招きます。早めに取り換えるようにしましょう。また冷蔵庫の後ろにあるコンセントは、時々点検（掃除）をしましょう。

ぬれた手で電気器具を扱うと危険

電気を安全に使用するうえで、強敵になるのが、湿気や水分です。家庭の流し台付近、洗面所や風呂場などで電気器具を使うとき、ぬれたままの手でコンセントプラグ、家電製品（電気ドライヤー、シェーバーなど）に触れたときなど悪条件が重なると、ビリビリではすまないことになりかねかねません。面倒がらずに乾いた状態で扱うようにしましょう。

壁や柱にコードを固定しない

コードが傷つき、加熱して火災の原因になります。



しろうと工事は危険！

コンセントや専用回路の取付けなど、電気工事を行うには資格が必要です。お近くの電気工事店や地域の「でんき工事ホームセンター」へご相談ください。

自然災害時の電気

自然災害発生時には停電の可能性が高くなります。皆さん一人ひとりが日頃から「自分の安全は自分で守る」心構えをしておくとともに、さまざまなことに対して対策を考えておくことが大切です。

災害時における電気の対処

スイッチを切りプラグを抜く

特に火事の原因となりやすい電気ストーブやアイロン、ドライヤーなどの電気製品は、すぐにプラグをコンセントから抜くことを心がけましょう。

ブレーカーは「切」にして避難

災害時に家の外へ避難する時は、電気が原因で火災を起こさないように分電盤のアンペアブレーカー（サービスブレーカー）を「切」にしてから避難してください。

ガス臭いときはスイッチに触らない

家の中でガスの臭いがしたときは、電気のスイッチをつけると、火花が飛んでガスに引火する恐れがあるので、絶対に触らず、使用しないでください。

水にぬれた電気製品は必ず点検

電気製品や配線類が浸水や漏水などで水に濡れてしまったときは、漏電などの原因になるので、必ず電気店などでしっかり点検してください。

屋外では電線に注意

災害で切れた電線には触れないようご注意ください。見つけたら電力会社に連絡しましょう。

その他

「トラッキング現象」とは

差しっぱなしの電源プラグとコンセントのすき間に埃がたまり、空気中の水分（湿気）が加わると、刃と刃の間にわずかな微電流が流れプラグ表面が炭化し、電気の道ができます。これを「トラッキング現象」といいます。

この現象により突然プラグが発火することがあります。

トラッキング対策は

- プラグは、しっかりと差し込みましょう。コードを抜くときは、プラグを持って抜きましょう。
- 年に数回コンセントからプラグを抜き、プラグの先端部分を拭きましょう。
- 台所やトイレなど湿気のある場所や家具の後など、埃のたまりやすい場所にあるコンセントが汚れていたら、定期的に清掃しましょう。
- 旅行などで長い間家を空けるときは、家電製品のプラグをコンセントから抜いておきましょう。

夏場は、汗をかきやすく、涼を求めて水場に出かけたりする機会が増えます。ついうっかりと濡れた手で、電化製品のプラグに触れたりコンセントに差し込んで、感電することの無いように注意しましょう。電気は使い方を間違えると火災の原因となります。今回の内容を参考に上手に電気と付き合いましょう。猛暑が続きます。冷房の使用は我慢せず上手に使って熱中症とならないように気を付けてくださいね。